

# 「ぼく・わたしの町」

内田愛佳梨（うちだ あかり） 4歳

大野幼稚園

（岐阜教区）

## ●表紙のこたば●



薄墨で描かれた道路にはセンターラインや車線でしょう、クレヨンの線が引かれています。あるところは白い線、あるところは破線、またあるところは黄色と、車線にもいろいろあることに気づいていることから、あかりさんが身の回りの環境に関心を持って生活していることがわかります。フェルトペンで細かな所まで描いている町の様子にも、そのひとつひとつに楽しいエピソードを彷彿させてくれます。

先生は、日常に目を向け表現することを通して、自分の生活の中に、さまざまな人々との関わりや、出来事、環境があることに気づかせたいと願うこの題材に取り組んだそうです。そのきっかけが道路であったのでしょうか。お友だちと道路をつなげてみたり、お互いの作品について嬉しそうに話し合いながら、どんどんとストーリーが広がっていき、新たに思いついたことが次々と描き足されていきました。あかりさんの表現から、伝え合うことの大切さがわかります。

おおはし いさお  
**大橋 功**

岡山大学大学院  
教育学研究科